

# 桜川文芸

## 俳句

【大和俳句愛好会】

朝の日矢まっすぐに来る白牡丹

鈴木 つぎ

命名へ筆よどみなき聖五月

安達 幸子

春炬燵敬語のとれし嫁姑

皆川 和子

後もどり出来ぬ人生春寒し

代田 とし

篤農家齡忘るる田植どき

斉藤与誌江

返事して出れば空耳初夏の風

田中 かつい

【桜川岩瀬俳句会】

鯉幟腹を満たして泳ぎけり

上野 吉江

ゆるる藤水に写して笑む如し

菊池 すい

下る藤紅指す指の口びるに

永瀬 ちい

校庭に喜々たる児等や夏立ちぬ

大関しず子

亡き夫の靴に触れるや初夏の旅

細谷 充子

名刹の鐘のひびきや夏の暮れ

長井 冬扇

## 短歌

【やまと短歌会】

転勤について移りし内裏雛

座の定まりて笑顔かがやく

賑わえる雛の祭りに蔵の街

青い目の女首を傾げる

人の声絶えたる街の飾り窓

貝殻雛は海語り初む

寒さやや緩び初めたる陸奥に

朱色とりどり吊し雛ゆらぐ

ひな飾りの前に姉と座りたる

古き写真の写し手は母

百六十年前の「古今雛」

飾る女主人の顔の気高き

【岩瀬短歌会】

また来ると約して握りし友の手の

白骨拾ふこころの重き

八十路なる夫のトラクター傾ぎつつ

起こす山畑土匂い立つ

母の歌う鉄道唱歌にハミングを

添えて卒寿を子らは祝えり

父母よりも夫よりもなお長らえて

なすな粥すすする大寒の朝

おちこちの寺より聞ゆる除夜の鐘

流されゆくや私の煩惱

老ひる事しみじみ寂し耳遠く

物忘れして足腰弱し

鈴木美津子

大久保富美江

五月女静江

渡辺しな子

片岡喜知子

小林美瑛子

長谷川玲子

安達すみ子

石川 喜代

高橋ミツエ

北条 正子

中島 龍子

野村 幸男

栗崎よしの

鈴木 とみ

小林 むら

高橋ミツエ

北条 正子

中島 龍子

野村 幸男

栗崎よしの

鈴木 とみ

小林 むら

高橋ミツエ

北条 正子

中島 龍子

野村 幸男

栗崎よしの

鈴木 とみ

小林 むら

有料広告掲載募集中!

お問い合わせは、秘書広報課へ ☎58-5111-75-3111、内線1268

広報 さくらがわ

有料広告掲載募集中!

お問い合わせは、秘書広報課へ ☎58-5111-75-3111、内線1268

広報 さくらがわ